

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年6月26日

予報期間：6月28日～7月27日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本と東日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
東日本太平洋側と西日本では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:30:30 40:40:20	20:40:40 20:30:50	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 40:40:20	20:30:50 20:30:50	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 50:30:20	10:30:60 10:30:60	
沖縄・奄美		10:30:60	20:40:40	30:40:30	

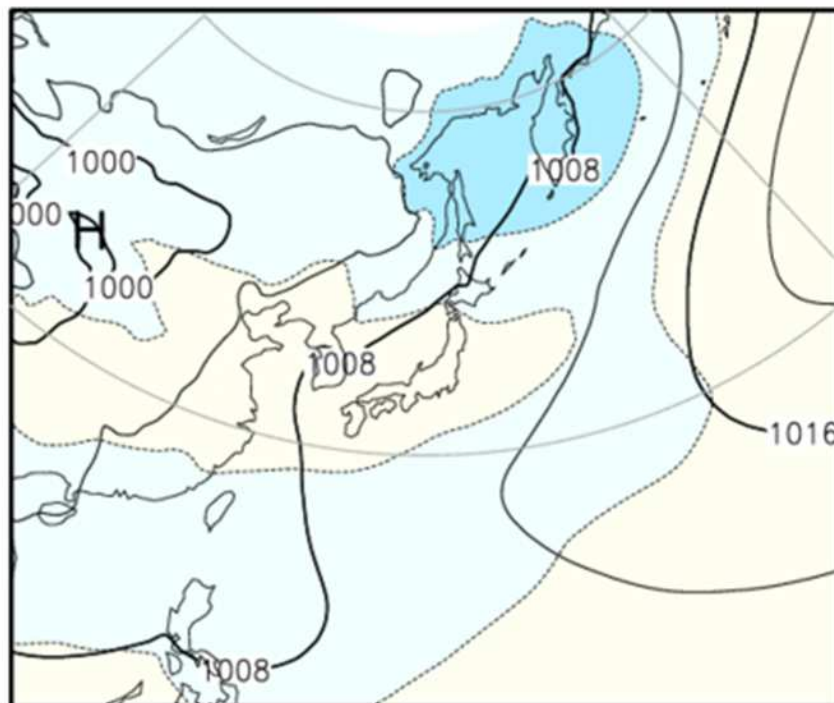
気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	20:40:40	20:40:40

全般予報のポイント

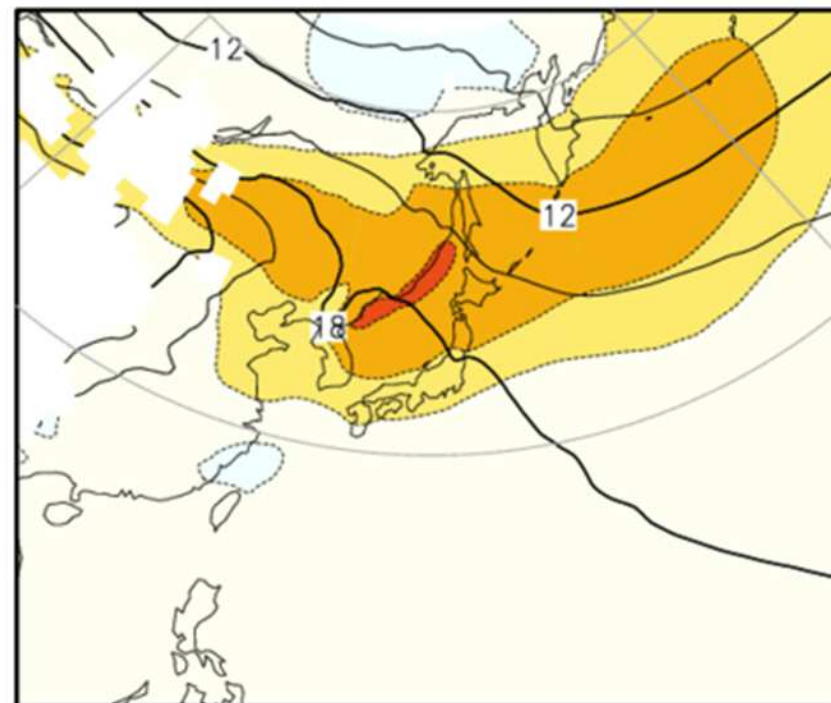
- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- 太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は、東日本日本海側と西日本では少なく、北・東日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。向こう1か月の日照時間は、北日本太平洋側と東・西日本では多く、北日本日本海側では平年並か多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

北日本太平洋側と東・西日本では、6月24日発表の3か月予報での7月の予報に比べ、太平洋高気圧に覆われやすい見通しが強まったため、少雨の可能性が大きくなりました。

海面気圧(1か月)



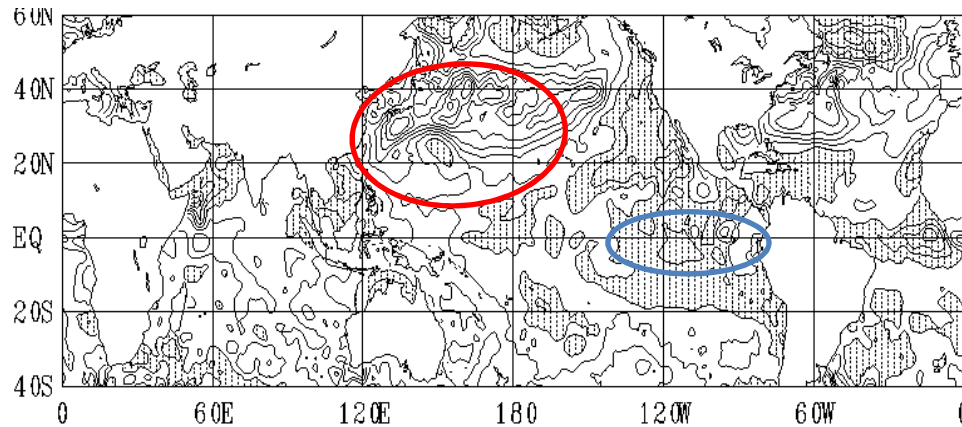
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、西日本付近を中心に太平洋高気圧が強く予測されています。北・東・西日本では太平洋高気圧に覆われやすいでしょう。一方、日本の南は気圧が平年より低く予測され、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

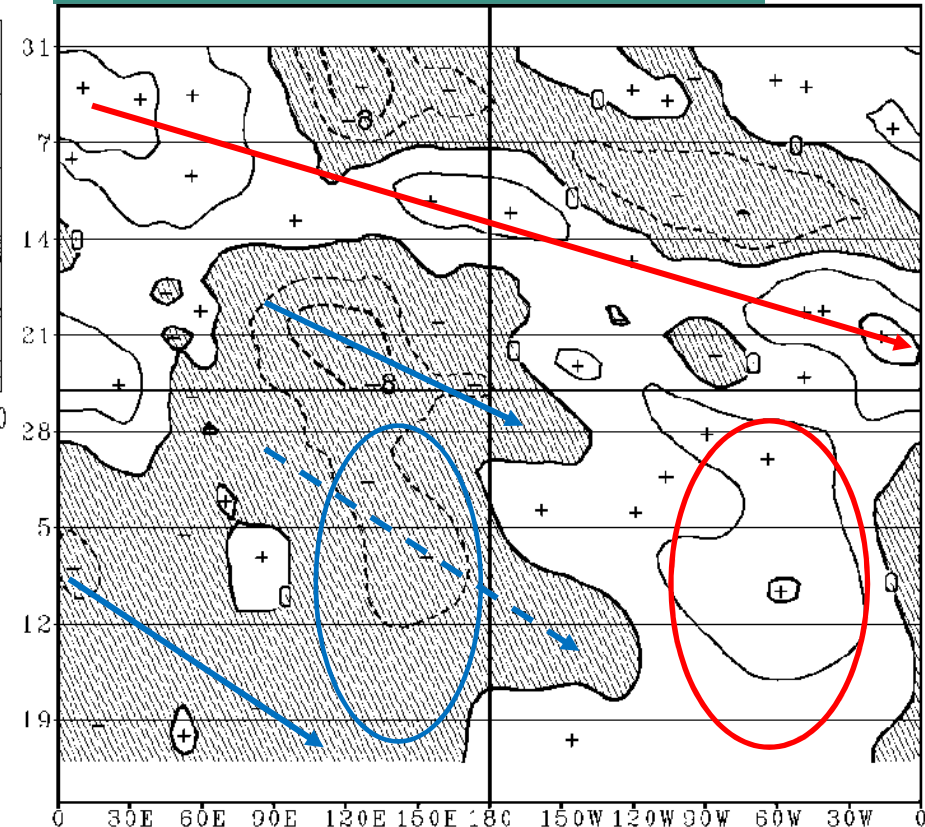
上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に、ほぼ全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



熱帯域では、太平洋東部で負偏差、北西太平洋で広く正偏差。

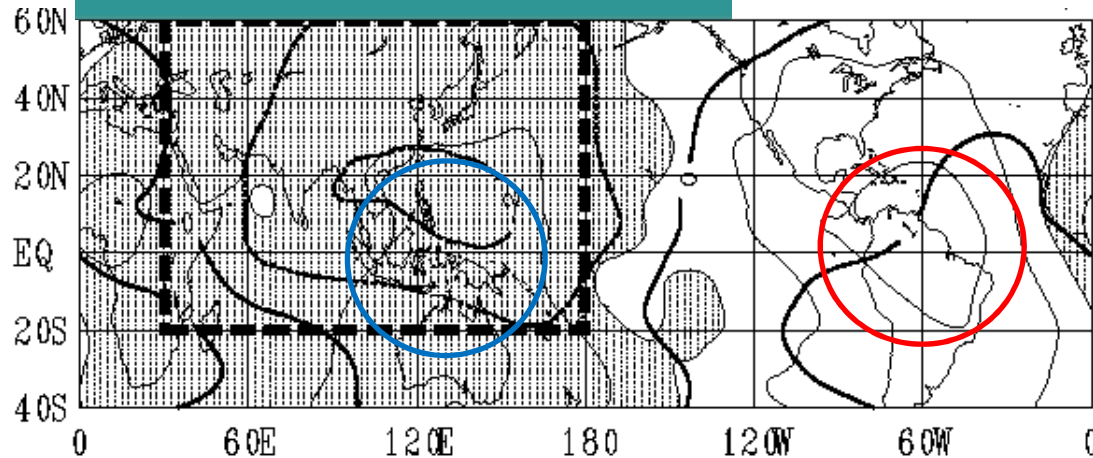
200hPa速度ポテンシャル偏差



実況から4週目にかけて、発散偏差域(対流活発域)が太平洋西部で持続。一方、収束偏差域(対流不活発域)が太平洋東部から南米付近で持続。
2週目以降、インド洋で対流活発域が東進。

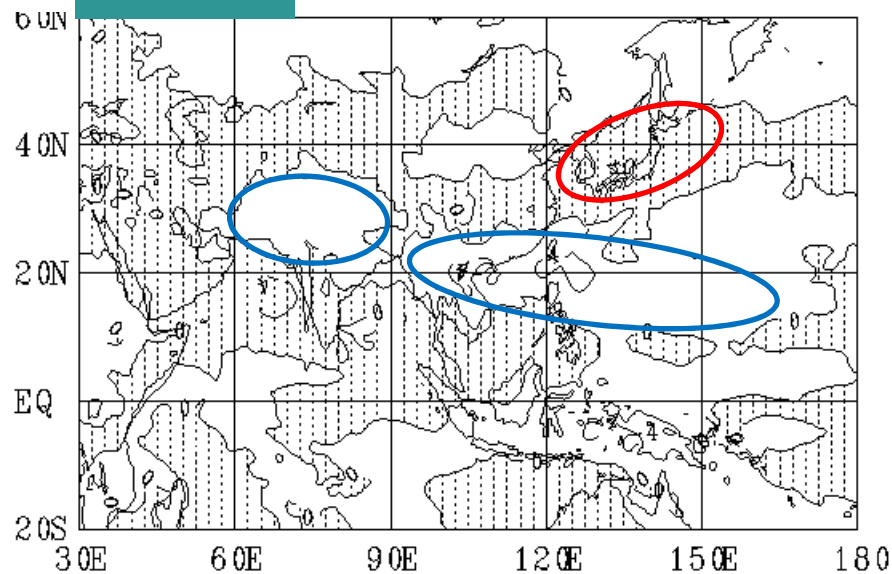
予報資料の解釈 1か月(6/28~7/25)

200hPa速度ポテンシャル



熱帯域では、フィリピンの東からインドネシア付近で上層発散偏差。一方、南米付近で上層収束偏差。

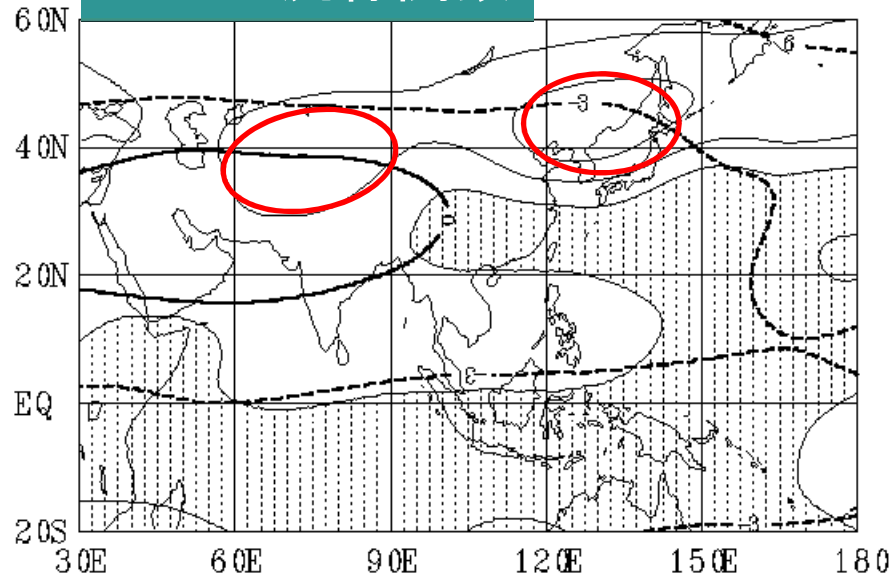
降水量



インドの北と、インドシナ半島の北からフィリピンの東にかけて多雨偏差、北・東・西日本付近は少雨偏差。

予報資料の解釈 1か月(6/28~7/25)

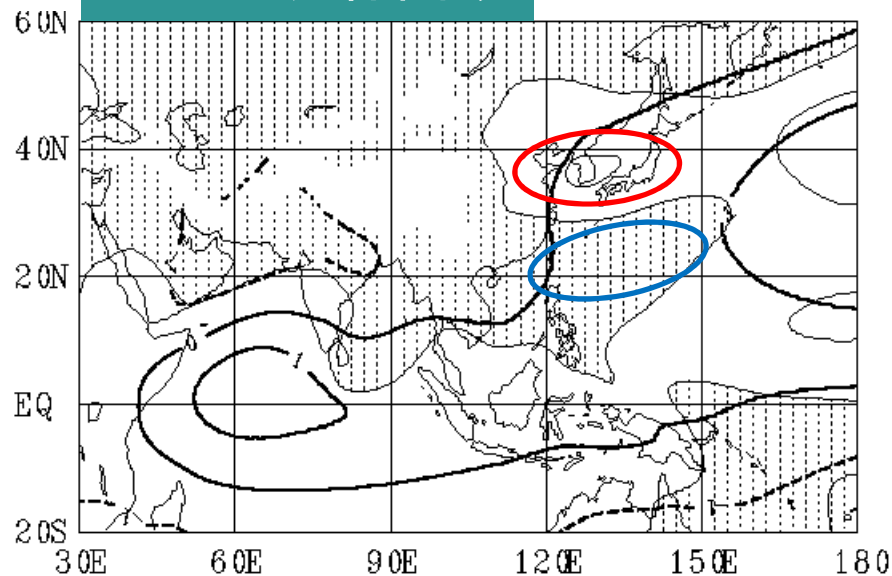
200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播や熱帯の対流活動の影響で、日本付近は高気圧性循環偏差。

亜熱帯ジェット気流はアジアから日本付近で北偏。

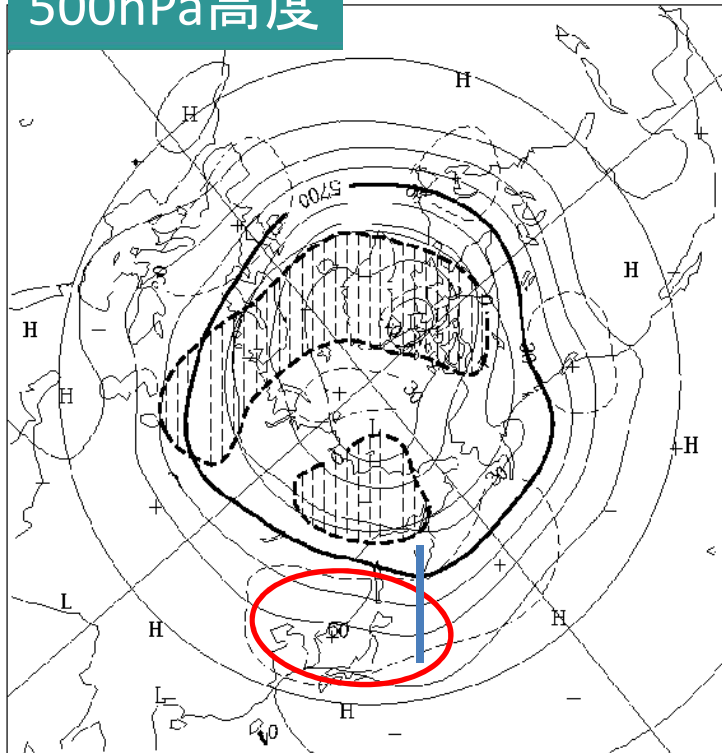
850hPa流線関数



フィリピンの東の対流活発に対応して、日本の南で低気圧性循環偏差、その北の本州付近で高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1か月(6/28~7/25)

500hPa高度

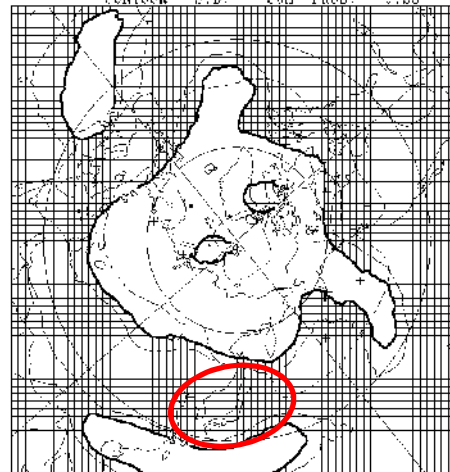
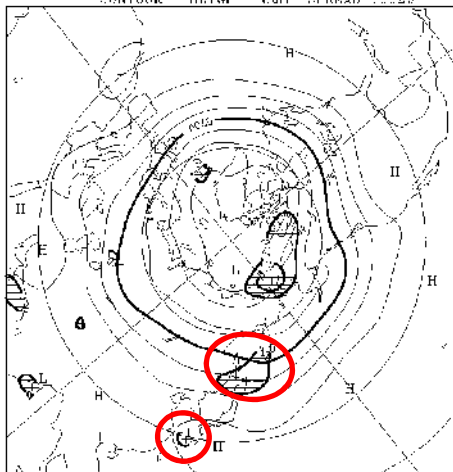


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 400m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25



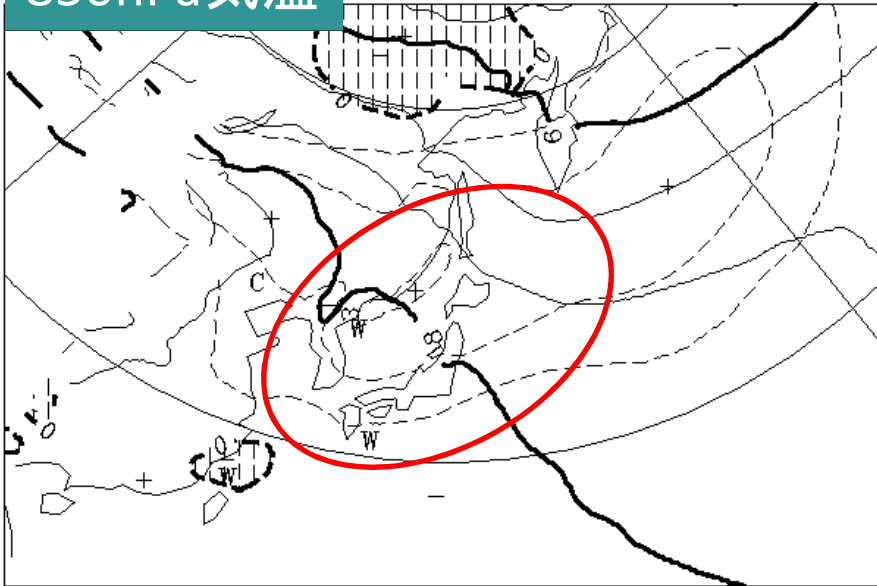
北半球中緯度帯のほぼ全域で正偏差で、日本付近は特に偏差が大きい。日本の東にトラフがあり、日本付近は東谷傾向。

北・東・西日本は正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。

日本の北にスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性を示唆。また、東シナ海でもスプレッドが大きく、熱帯擾乱の予測の不確実性を示唆。

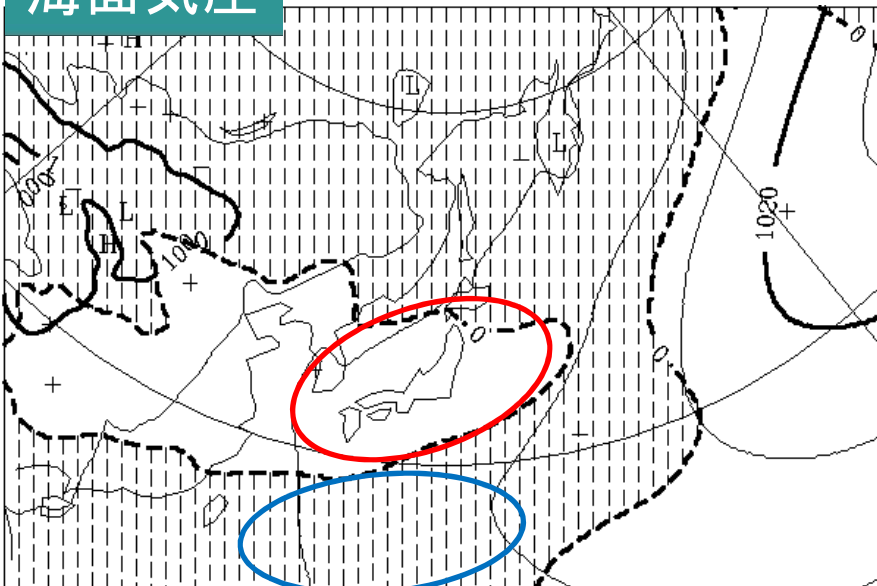
予報資料の解釈 1か月(6/28~7/25)

850hPa気温



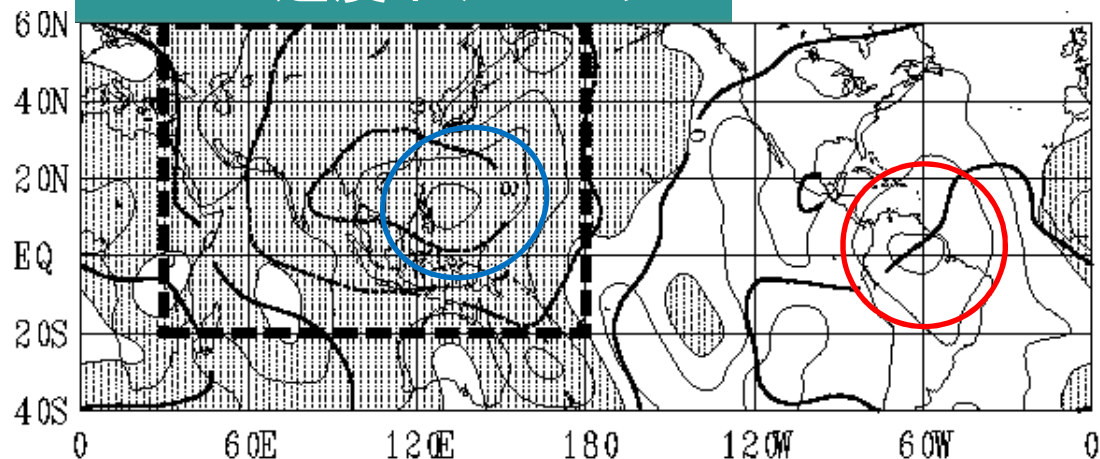
日本付近は北日本を中心にほぼ全国的に正偏差。

海面気圧



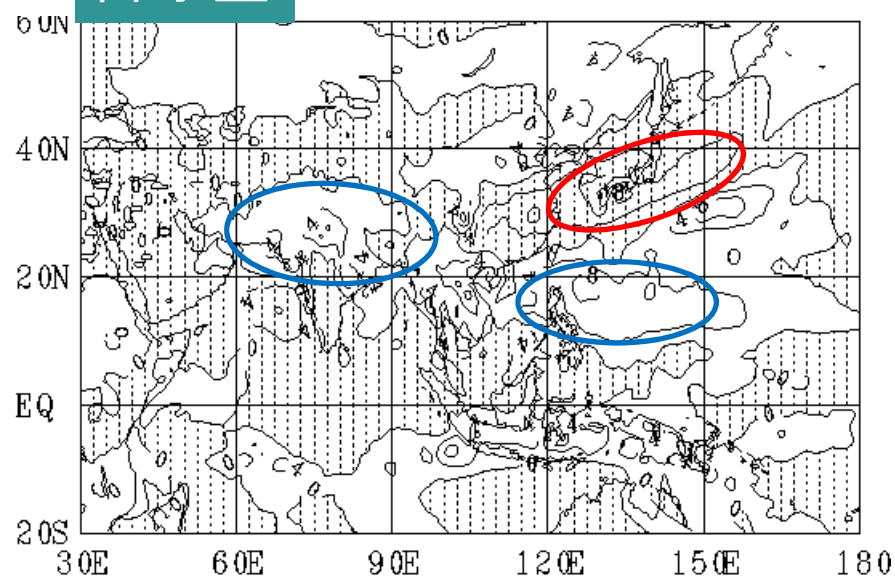
西日本付近を中心に太平洋高気圧の張り出しが強く、北・東・西日本では太平洋高気圧に覆われやすい。一方、日本の南は負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



熱帯域では、フィリピンの東を中心に上層発散偏差。
一方、南米付近で上層収束偏差。

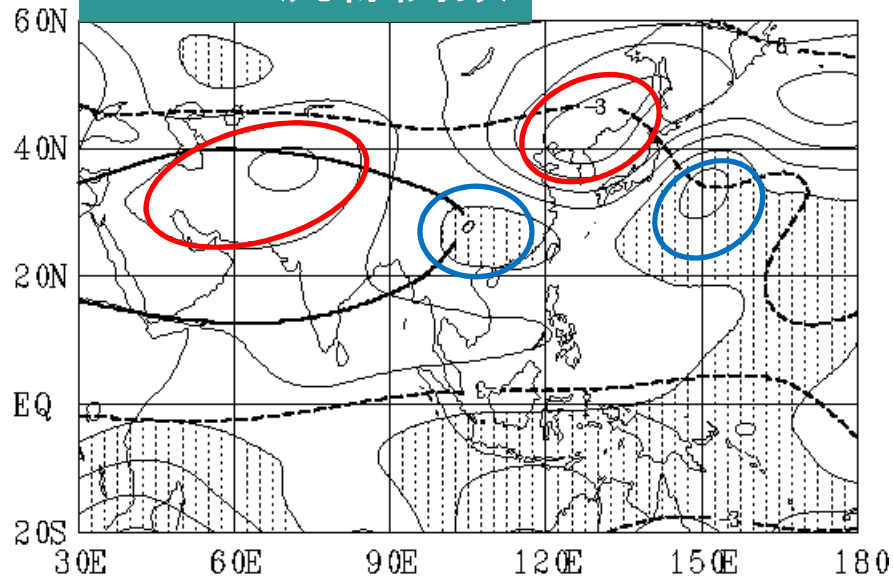
降水量



インドの北とフィリピンの東で
多雨偏差。日本付近は少雨
偏差。

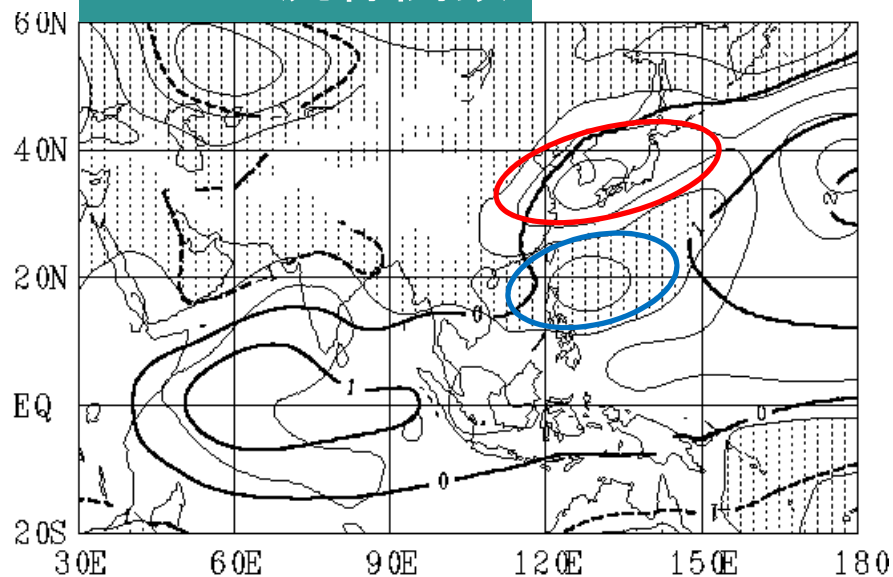
予報資料の解釈 1週目(6/28~7/4)

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播の影響で、中国東北区付近を中心に高気圧性循環偏差。日本のはるか南東海上で低気圧性循環偏差。

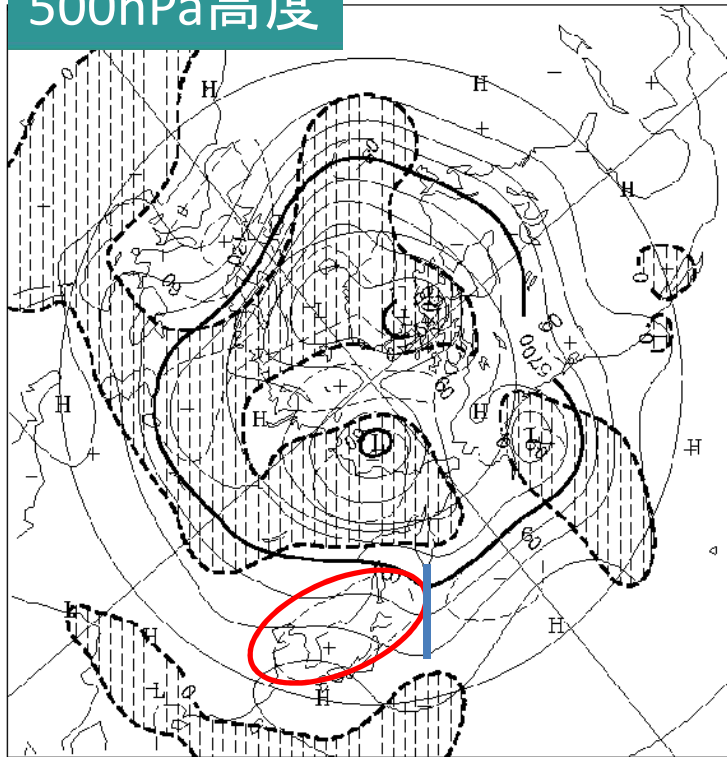
850hPa流線関数



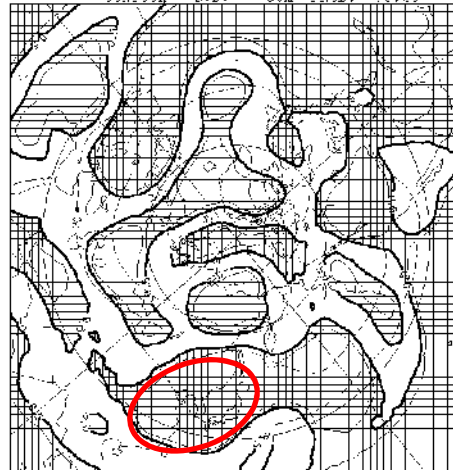
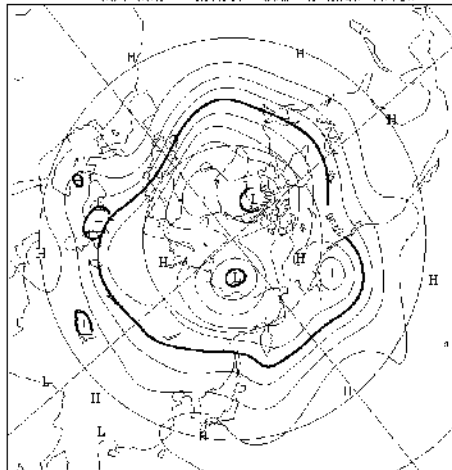
フィリピンの東の対流活発に対応して、フィリピンの東から日本の南で低気圧性循環偏差、その北の本州付近は高気圧性循環偏差で、順圧的な構造。

予報資料の解釈 1週目(6/28~7/4)

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20
CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25

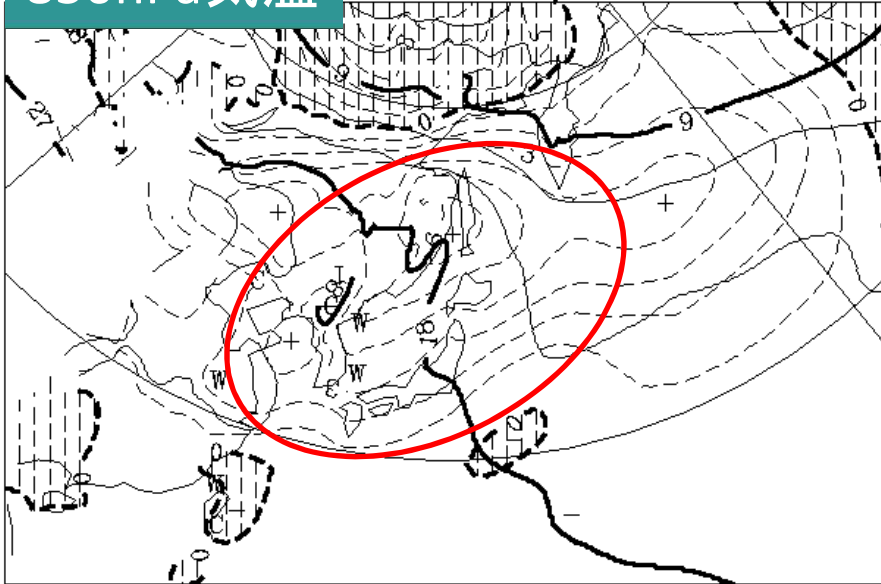


日本付近は正偏差で偏差の中心は日本海。日本の東にはトラフがあり、日本付近は東谷。

日本付近は広く正の高偏差確率75%以上の領域に覆われている。

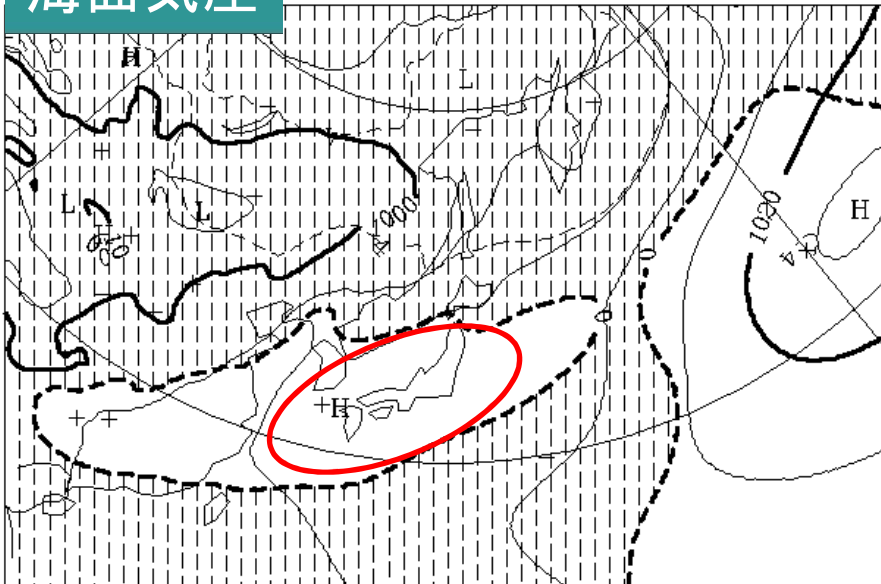
予報資料の解釈 1週目(6/28~7/4)

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に顕著な正偏差。

海面気圧



太平洋高気圧は本州付近に強く張り出し、西日本中心に太平洋高気圧に覆われやすい。
梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれは不明瞭。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

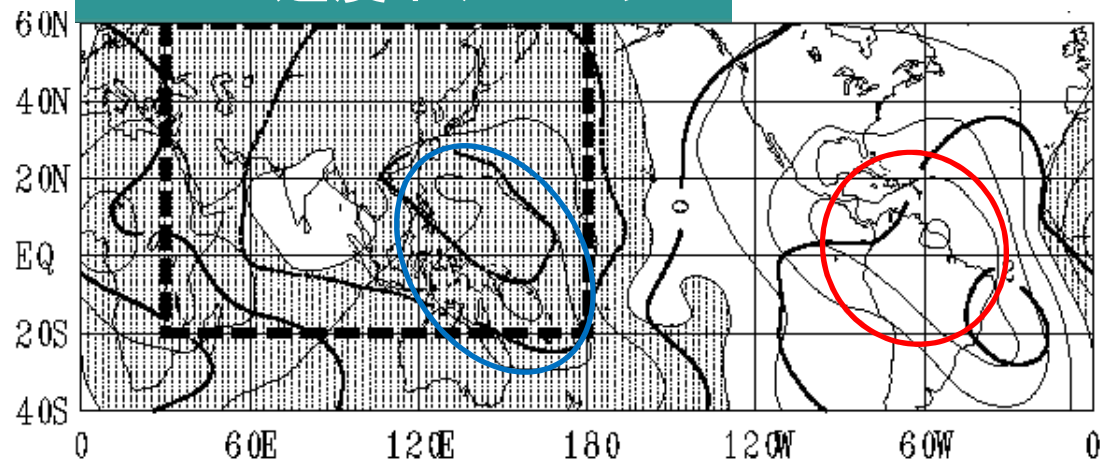
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなりの高温。

<天候>

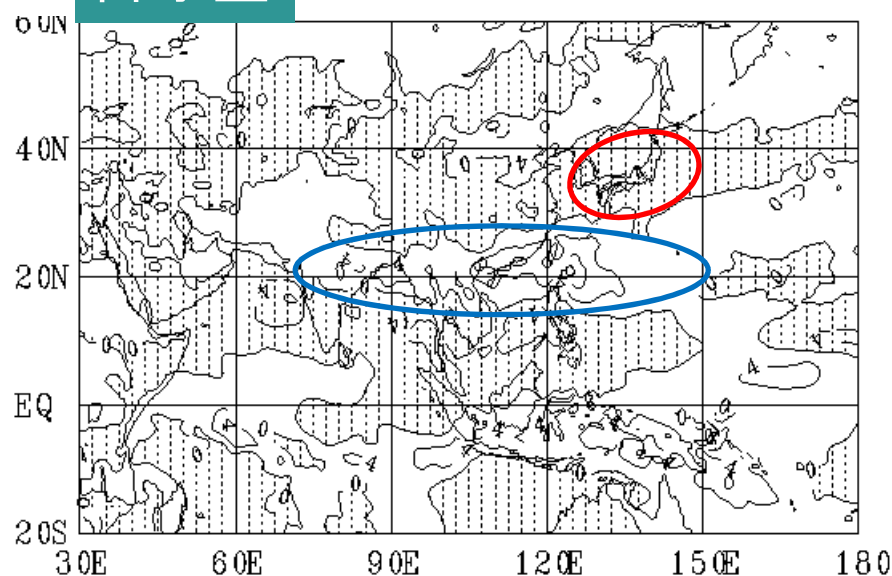
全国的に太平洋高気圧に覆われやすい。

200hPa速度ポテンシャル



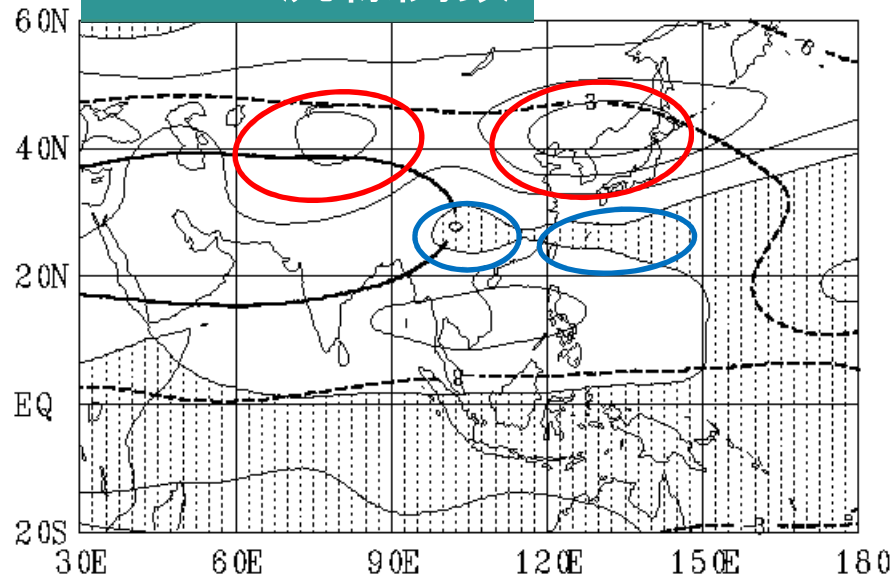
ニューギニア付近とフィリピンの東で上層発散偏差、南米付近で上層収束偏差。

降水量



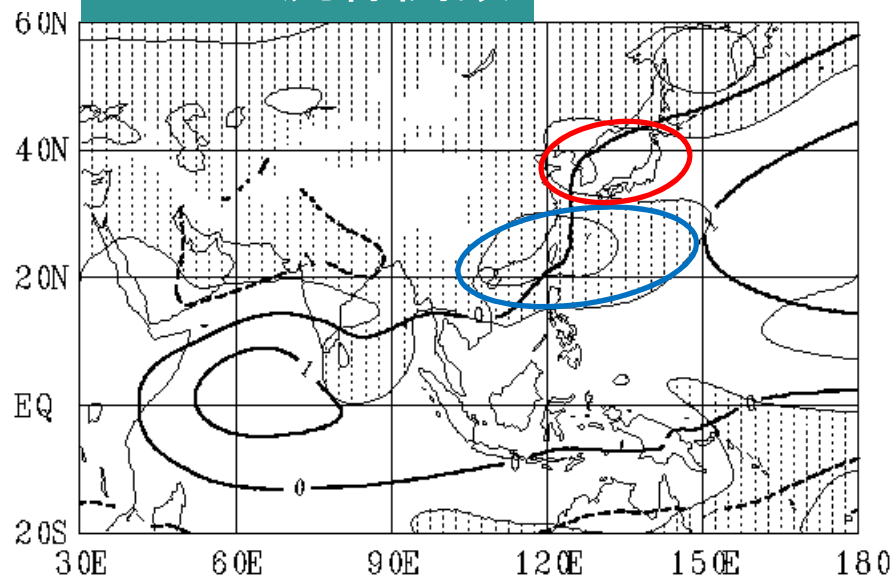
インドの北から太平洋西部にかけての北緯20度帯で多雨偏差。本州付近は少雨偏差。

200hPa流線関数



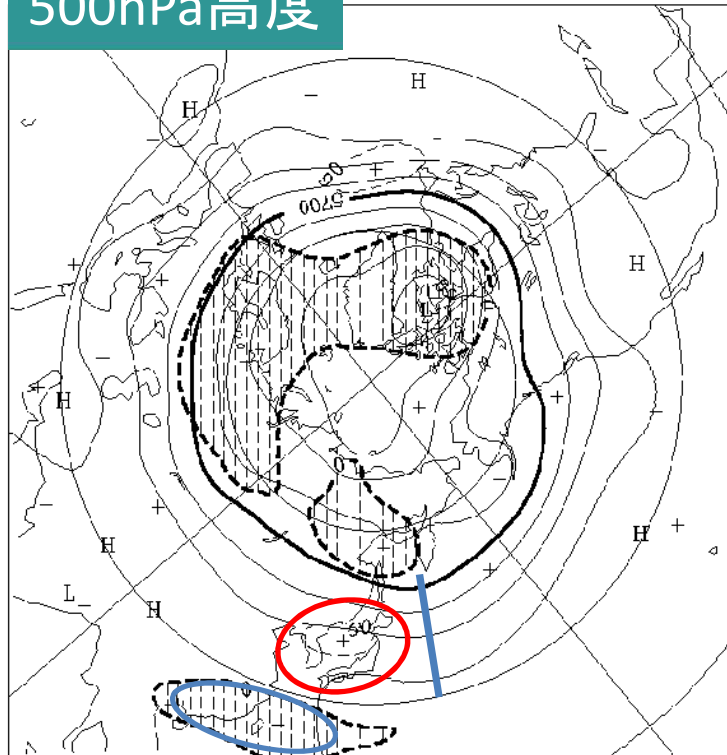
亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播および熱帯の対流活動の影響で、中国東北区から日本付近で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

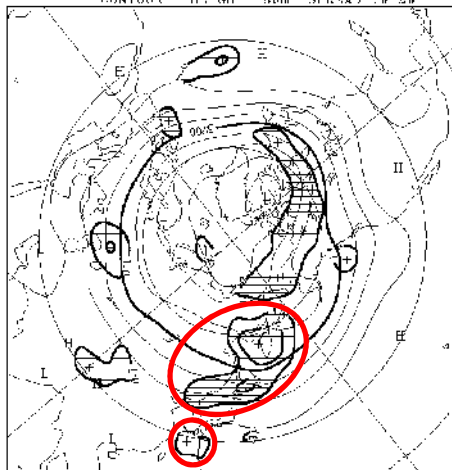


北緯20度帯の対流活発に対応して、日本の南で低気圧性循環偏差、その北の本州付近は高気圧性循環偏差で、順圧的な構造。

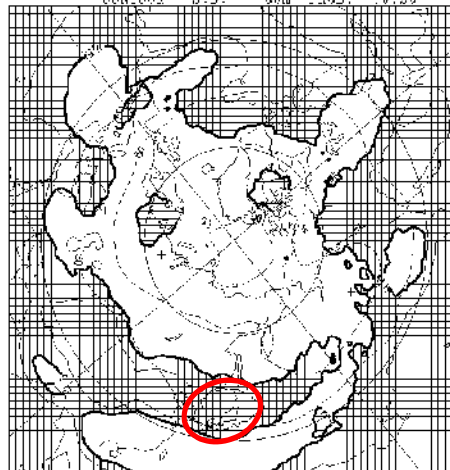
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20



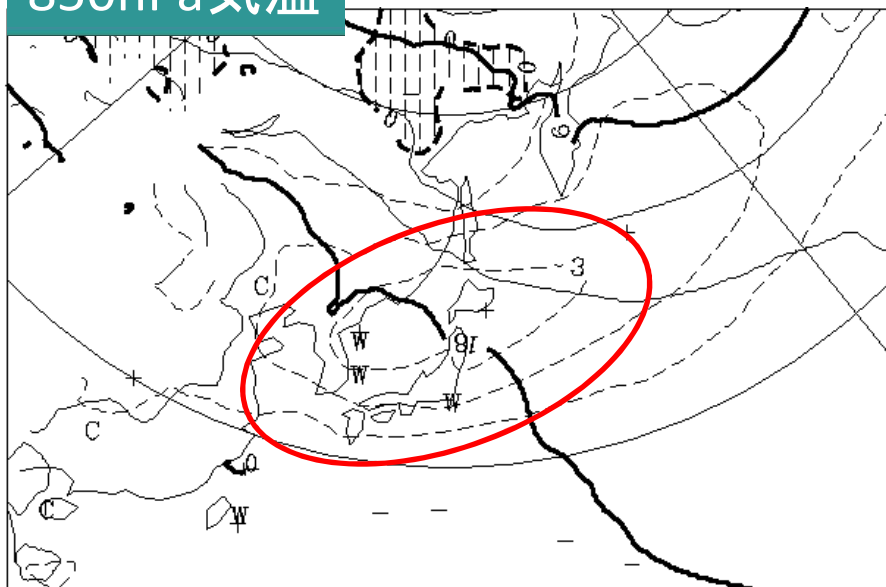
PROB. OF ILAKOMAY AND S.D.



日本付近は正偏差で偏差の中心は日本海。日本の東にはトラフがあり、日本付近は東谷。華南から日本の南にかけて負偏差。

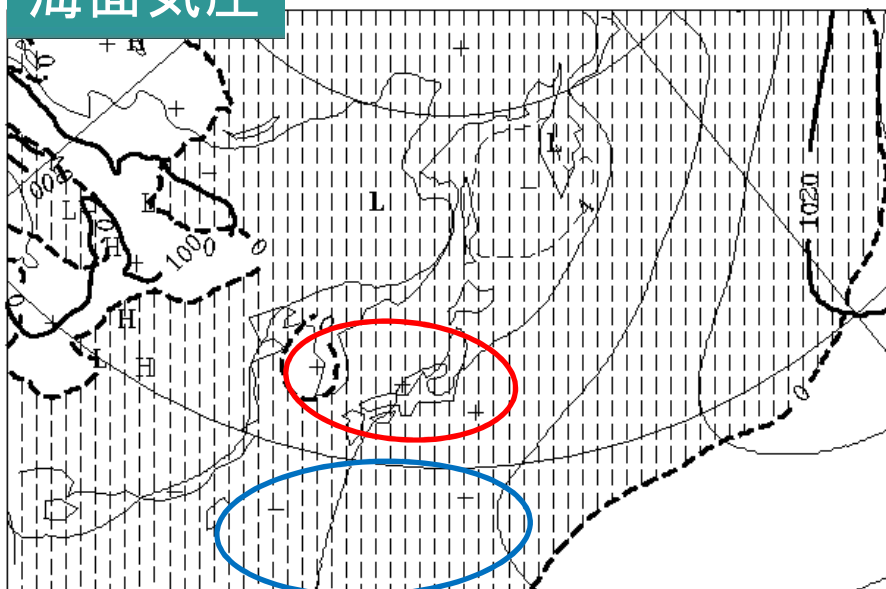
本州付近は正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。北日本付近から日本の北にはスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性を示唆。また、東シナ海でもスプレッドが大きく、熱帯擾乱の予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に正偏差。

海面気圧



本州付近では相対的な正偏差で、
東・西日本中心に太平洋高気圧に覆
われやすい。
梅雨前線帯に対応する等圧線のくび
れは不明瞭。
日本の南は負偏差で、沖縄・奄美で
は湿った空気や熱帯擾乱の影響を
受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 北日本太平洋側と東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本は高温、沖縄・奄美は高温傾向。沖縄地方を除きかなりの高温。

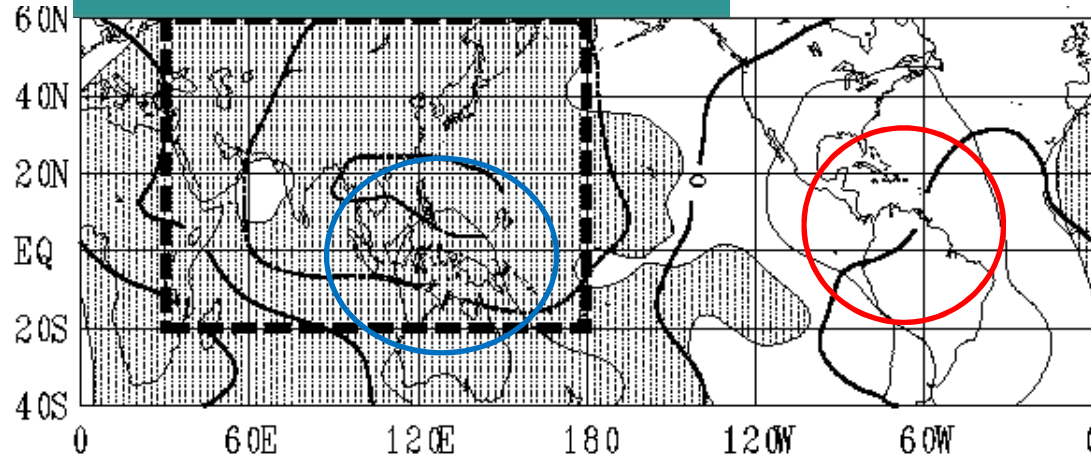
<天候>

北日本日本海側では、平年と同様。

北日本太平洋側と東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすい。

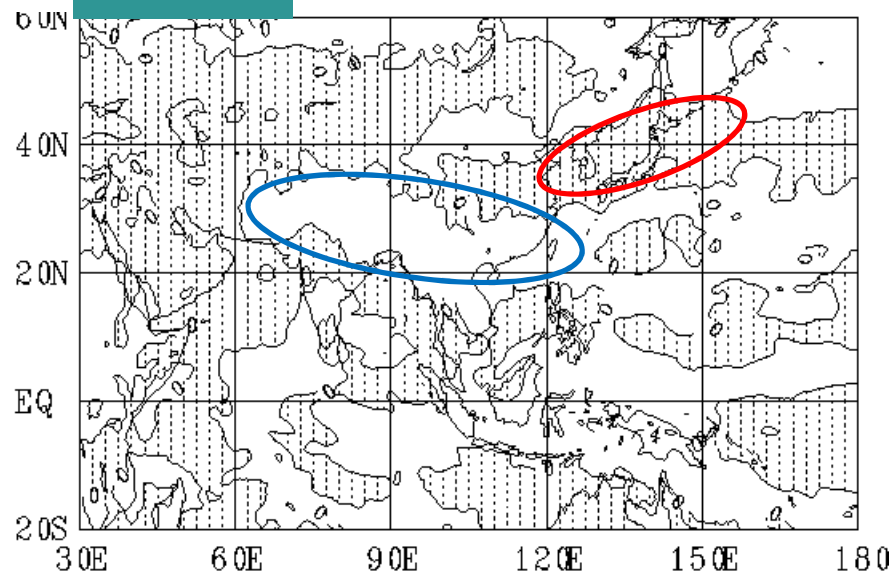
沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



インドネシア付近で上層発散
偏差、南米で上層収束偏差。

降水量

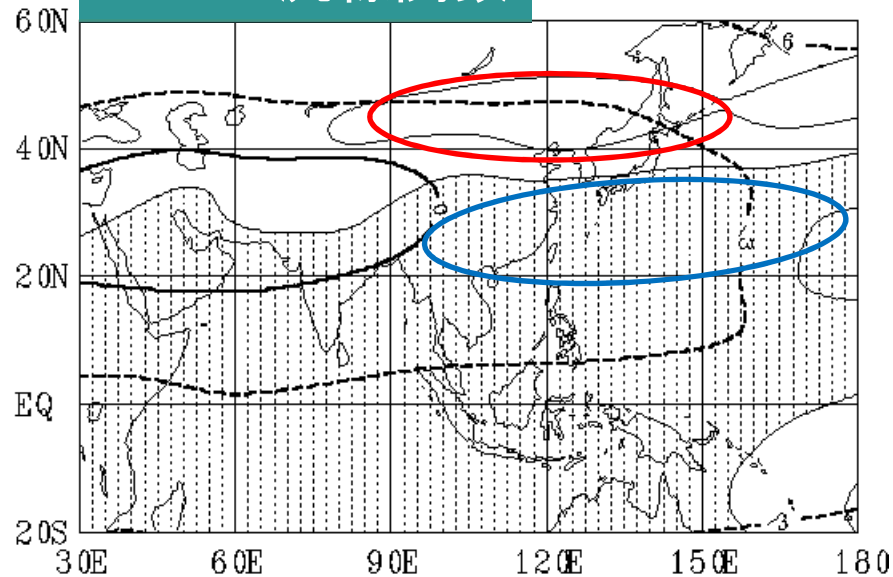


インドの北から東シナ海付近で
多雨偏差。北・東・西日本付近
で少雨偏差。梅雨前線帯の北
上バイアスと弱化バイアスに留
意。

また、熱帯季節内変動の予測
に不確実性があり、その影響を
受ける可能性がある。

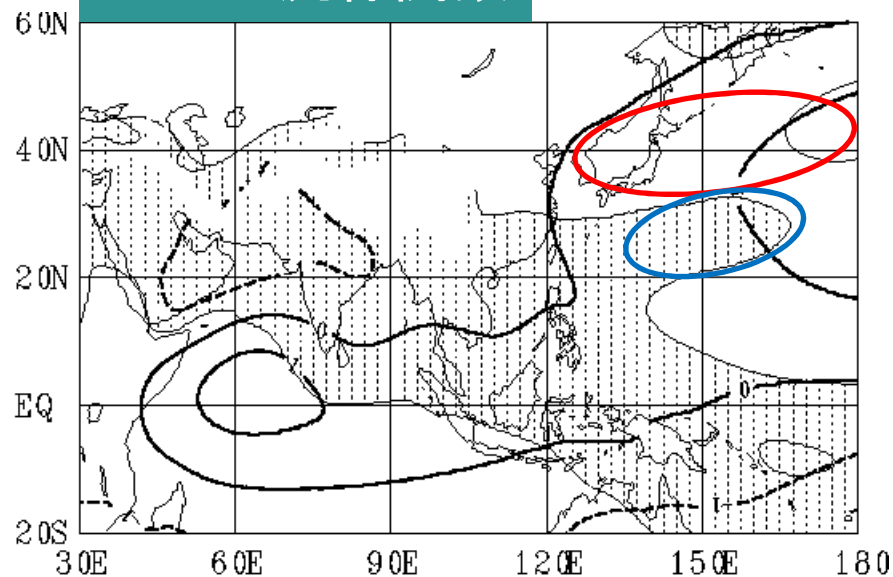
予報資料の解釈 3～4週目(7/12～7/25)

200hPa流線関数



日本付近は、本州を境に、北側は帯状の高気圧性循環偏差、南側は帯状の低気圧性循環偏差に覆われる。対応して、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本の東海上にかけて北偏して流れる。

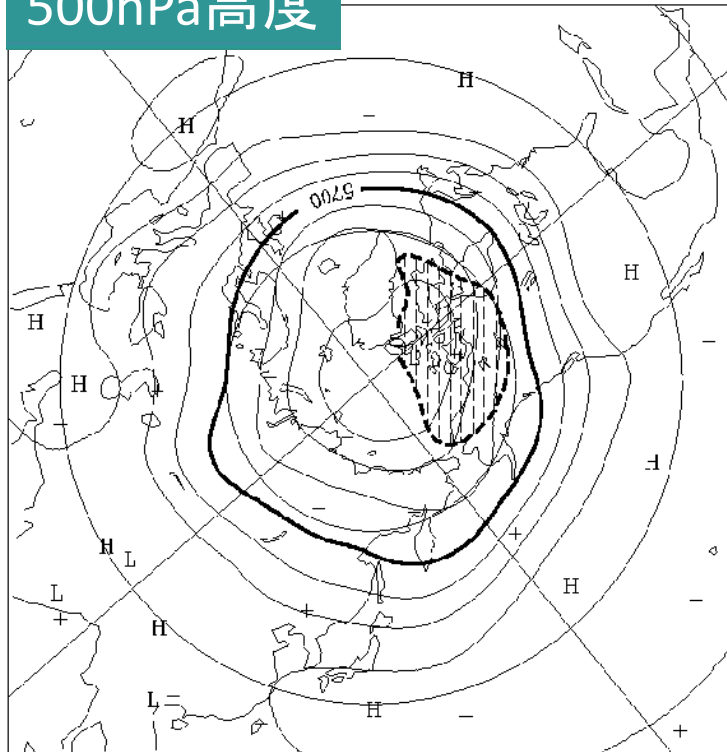
850hPa流線関数



日本のはるか南東海上で低圧性循環偏差。本州付近は高気圧性循環偏差。

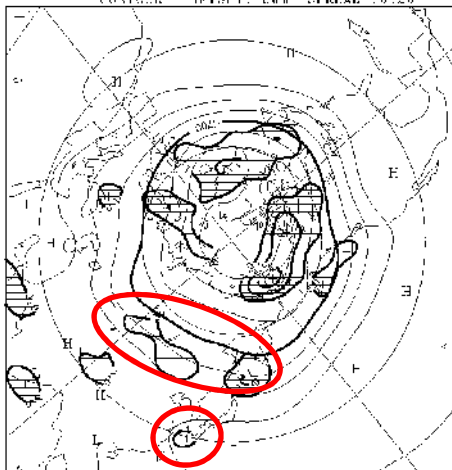
予報資料の解釈 3～4週目(7/12～7/25)

500hPa高度



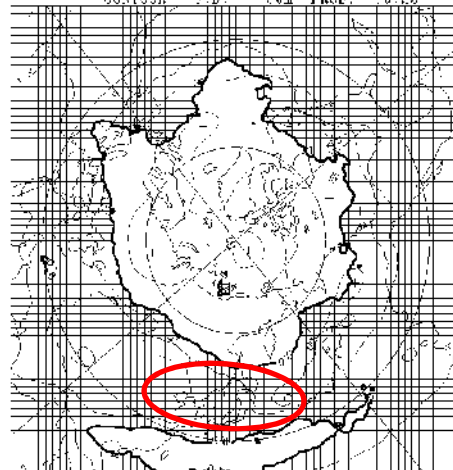
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

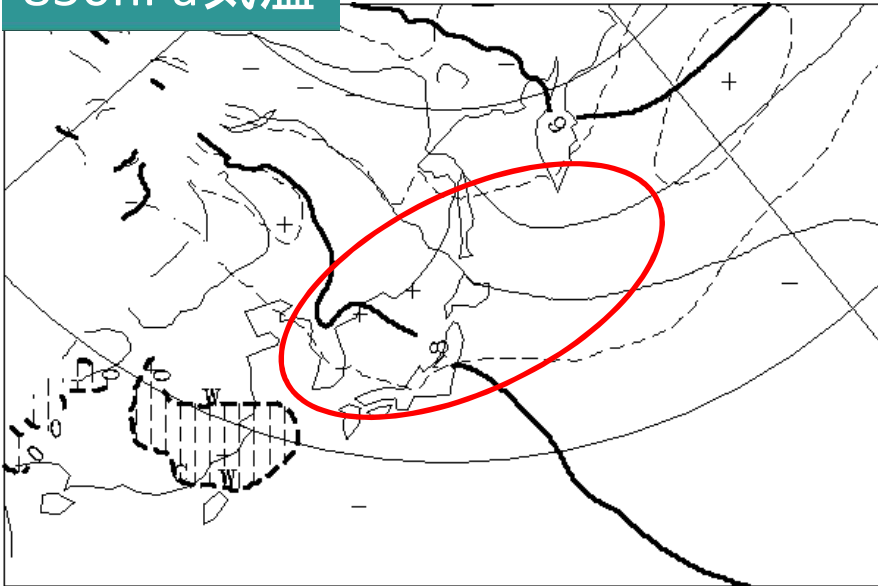


北半球中緯度帯全域で正偏差。

北・東・西日本は、東西帯状に伸びる正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

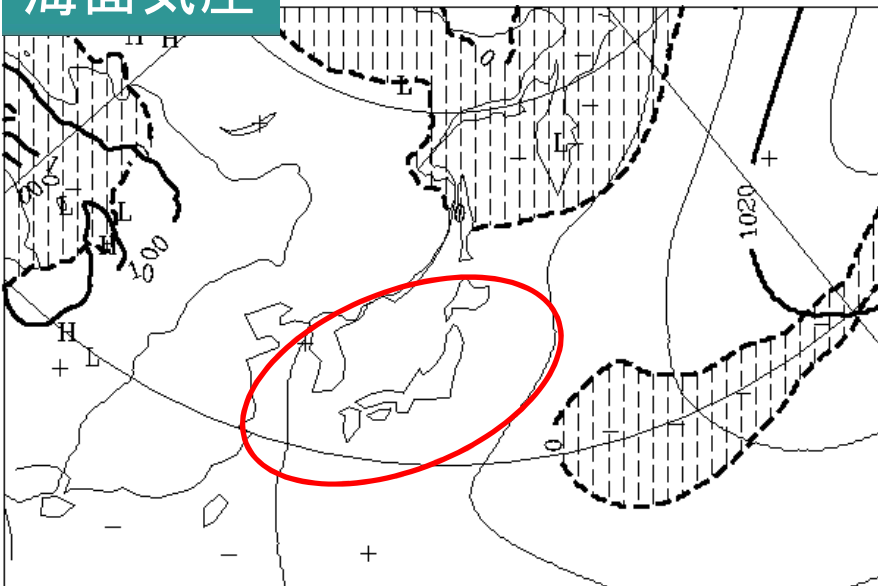
ユーラシア大陸や日本の北側でスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性を示唆。また、東シナ海でもスプレッドが大きく、熱帯擾乱の予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



北・東・西日本中心に正偏差。

海面気圧



日本付近は広く正偏差で太平洋高気圧に覆われる予測となっている。ただし、太平洋高気圧の北への張り出しを強めるモデルのバイアスに留意。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

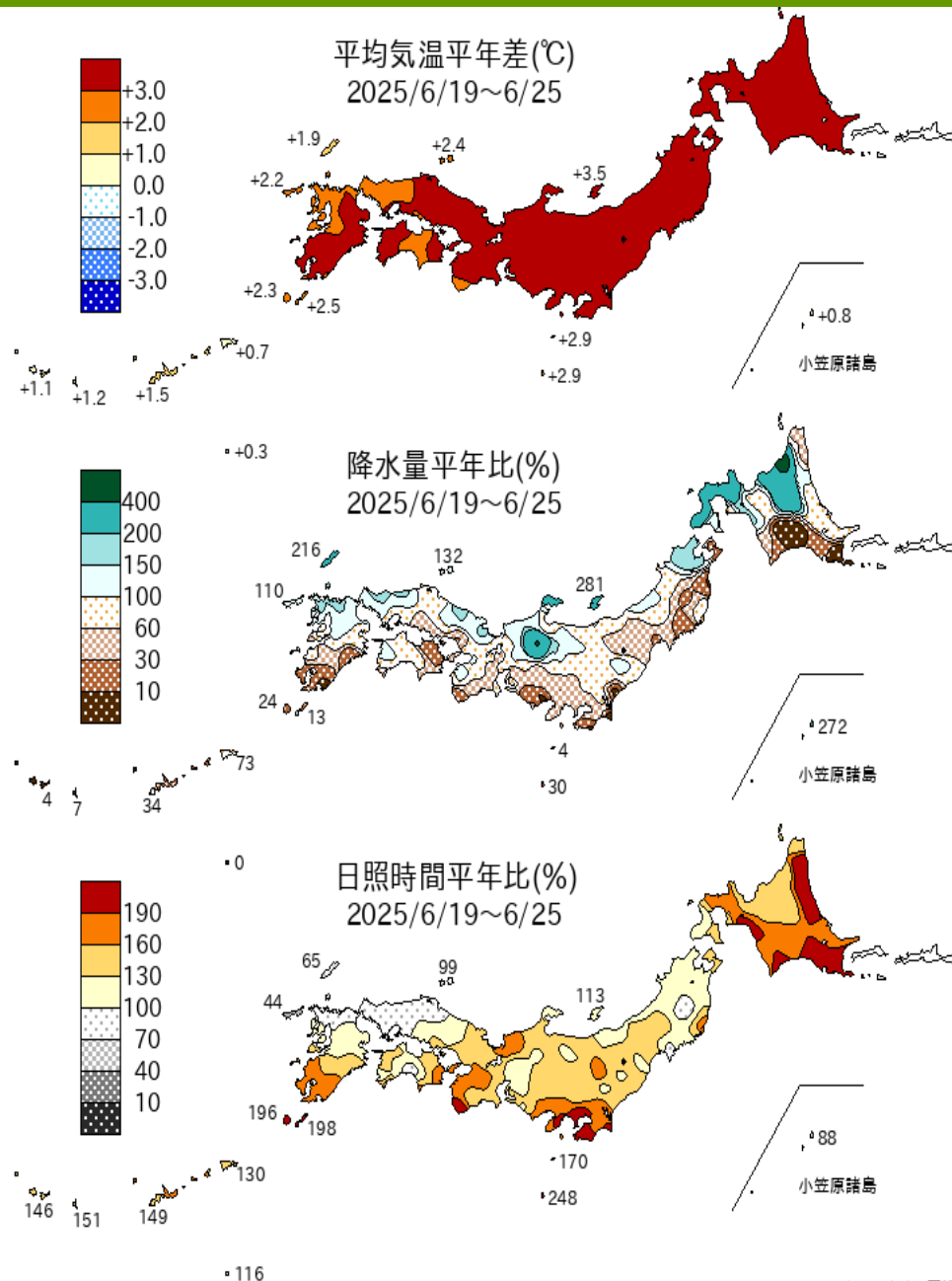
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本は高温、沖縄・奄美は高温傾向。

<天候>

全国的に、平年と同様。

最近1週間の天候経過



最近1週間(6月19日～6月25日)は、北・東・西日本では、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日もありましたが、太平洋側を中心に太平洋高気圧に覆われて、この時期としては晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では、期間を通して太平洋高気圧に覆われやすく、晴れの日が多くなりました。降水量は、日本海側を除き、平年を下回った所が多く、日照時間は、全国的に平年を上回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われたため、全国的に平年を上回り、特に北・東・西日本では平年を大きく上回りました。